



わたし ぐ 私たちの暮らしと せい ぶつ た よう せい 生物多様性

わたし ぐ せいぶつ た ようせい
私たちの暮らしと生物多様性

へいせい ねん がつ
平成31年3月

はっこう か ごしまし かんきょう ほ ぜん か
発行：鹿児島市環境保全課

〒892-8677 か ごしまし やましたらやう
鹿児島市山下町11-1

TEL 099-216-1298

FAX 099-216-1292



しょうがっこう 小学校	ねん 年	くみ 組	ばん 番
し めい 氏名			

か ごしまし
鹿児島市



もくじ
目次

1 自然や生き物とのかかわりを考えてみよう 3

2 生き物を見つけてみよう 9

 (1) 校庭や学校のまわり 11

 (2) 市街地・住宅地・公園 13

 (3) 川 17

 (4) 海・海岸・干がた 21

 (5) 里地・里山 23

 (6) 森林 25

3 季節と生き物 27

4 かがしま自然百選 29

5 生き物と環境 35

6 生物多様性って何？ 39

7 私たちにできること 47



やえ たなだ
八重の棚田



こうつきがわ
甲突川



しろやま
城山



てらやま
寺山

※おことわり

植物名などについては、一般的な名称で表現したものもあります。



さくらじま
桜島



かごしまわん きんこうわん
鹿児島湾（錦江湾）

私たちが住む鹿児島市は、雄大な桜島や波静かな錦江湾、街の周辺に広がる田園風景や清らかな川、緑鮮やかな山など豊かな自然にめぐまれています。

また、これらの自然には、いろいろな生き物がすんでいます。しかし、それが今、人間の活動が原因で、昔はどこにでもいた生き物が見られなくなるなど、生物多様性に危機が迫っています。人間を含め、これらの生き物が将来にわたりすみ続けるためには、自然を守り、育てていくことがとても大切です。

※生物多様性

人間も含めた、多くの種類の生き物全てが、複雑にかかわりあって生きていくことを「生物多様性」といいます。

1 自然や生き物とのかかわりを考えてみよう

環境の問題と思ったら、何を思い浮かべますか。おそらく、地球温暖化やごみの問題を思い浮かべると思います。しかし、今、これらの問題と同じように、もともといた生き物が少なくなっていることも問題になっています。



今、ものすごいスピードで生き物の種類が少なくなっています。

地球上では、これまでに多くの生き物が生まれ、そして、いなくなりましたが、ここ数十年で生き物のいなくなるスピードが速くなっています。このスピードは、これまでの平均的なペースと比べて100～1,000倍にもなり、1年間に約4万種の生き物がいなくなっています。そして、このスピードは、これからも速くなるといわれています。

実はこの生き物の種類が少なくなっている主な原因は、私たち人間の活動によるものです。



ニホンオオカミ
明治初期に日本で絶滅
鹿児島でも骨を発見



ゲンゴロウ
鹿児島県内では絶滅



アキアカネ
鹿児島県内では絶滅のおそれ

このままでは人間も無関係ではられません。

水や空気、食べ物、着るものなど人間が生きるために必要なものは、自然が与えてくれます。生き物がいなくなることで、自然界のバランスがくずれてしまい、自然のめぐみをもらうことができなくなります。



- 動物や植物が、私たちの暮らしの中で、どのように使われているか、考えてみましょう。
- この図の中で、石油製品はどれでしょうか。

わたし く
私たちの暮らし

自然豊かな鹿児島では、昔から人々が生活してきました。
旧石器時代には、各地を移動しながら主に狩りをした人々が、鹿児島でも生活をしていました。

時代が進み、縄文時代の鹿児島では人々が住み着き、狩りや木の実を採って生活をしていました。下福元町の掃除山遺跡からは竪穴住居跡やすり石・石皿、草野遺跡からは多くの貝殻や動物の骨を使った製品が発見されました。弥生時代には鹿児島でも稲作が始まりました。魚見町の魚見ヶ原遺跡からはもみの跡がある土器が、鹿児島大学の郡元キャンパスでは水田跡などが発見されました。

このように昔から鹿児島の人々は、自然と深くかかわりあって暮らしてきました。

鹿児島の街は、武士と商人の街として現在の上町地区から周辺に向かって大きくなり、人口も増えてきました。街の周辺には農地が作られ、郊外には、里地・里山が作られていきました。

江戸時代には人口が増え、木材、薪、木炭などに使用するため、街の周辺の多くの木が切られたと考えられています。



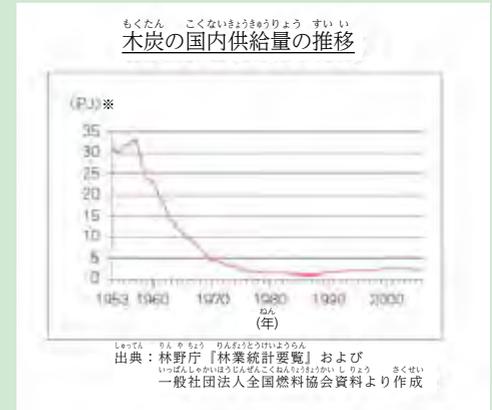
※里地・里山
人が自然に働きかけて生まれた空間。
人の手が入ることによって、自然界のバランスが保たれている山のこと。

時代が進むにつれて、街に水道や電気・ガスなどが整備されるとともに、人々の生活も変化し、また、鉄道や空港、港湾などが作られ、人や物の行き来がさかんになっていきました。

昭和20年には戦争で、街のほとんどが焼かれてしまいましたが、その後の復興でコンクリートのビルが建ち並ぶようになり、道路も舗装されていきました。

街の周辺や郊外では、木材として利用するため、スギやヒノキが植えられ、人工林が増えていきました。また、山を削って団地が造られたり、海を埋め立てて商業・工業地域ができたりしました。農村では、昭和43年ごろから田植えから収穫までの機械化が進み、いつのまにか牛馬耕は見られなくなりました。

人々の生活で使う燃料は、薪や木炭などから電気やガスなどに変わり、快適で便利な暮らしができるようになりました。また、街が大きくなるとともに、自動車の利用が増えるなど、石油や電気などのエネルギーを多く使う社会となりました。



※PJ(ペタジュール)……1ジュールの1兆倍という熱量の大きさを表す単位

鹿児島市では、人口が増えるにつれ、山を削って団地を造ってきました。昭和31年に造りはじめた紫原団地が昭和40年に完成し、城山団地と伊敷団地が昭和46年に完成しました。原良団地と桜ヶ丘団地は昭和53年に完成し、その後も三井ニュータウン（牟礼岡団地）などが完成しました。



みつい むれがおかだんち ぞうせい
三井ニュータウン（牟礼岡団地）の造成

昭和52年から旧吉田町の宮之浦に造成を始め、55年に完成しました。この団地の人口は、平成30年末現在、約2,700人です。



やちよう もり しるやまだんち
野鳥の森（城山団地）

団地造成では、公園などをついたり、団地のまわりの樹林を残したりなど、自然を残す工夫も行われました。

ねんだい 年代	だんち ぞうせい 団地造成
しょうわ ねん ねん 昭和31年（1956年）	むらさきばるだんち ぞうせい はじ 紫原団地の造成を始める（145.66ha）
しょうわ ねん ねん 昭和41年（1966年）	はらだんち ぞうせい はじ 原良団地の造成を始める（111.50ha）
しょうわ ねん ねん 昭和42年（1967年）	しろやまだんち ぞうせい はじ 城山団地の造成を始める（46.30ha）
しょうわ ねん ねん 昭和43年（1968年）	いしきだんち ぞうせい はじ 伊敷団地の造成を始める（101.50ha）
しょうわ ねん ねん 昭和49年（1974年）	さくらがおかだんち ぞうせい はじ 桜ヶ丘団地の造成を始める（139.76ha）
しょうわ ねん ねん 昭和51年（1976年）	ほしがみね ぞうせい はじ 星ヶ峯ニュータウンの造成を始める（171.11ha）
しょうわ ねん ねん 昭和52年（1977年）	みつい むれがおかだんち ぞうせい はじ 三井ニュータウン（牟礼岡団地）の造成を始める（55.38ha）
しょうわ ねん ねん 昭和55年（1980年）	こうとくじ ぞうせい はじ 皇徳寺ニュータウンの造成を始める（145.36ha）
しょうわ ねん ねん 昭和61年（1986年）	いしき ぞうせい はじ 伊敷ニュータウンの造成を始める（129.39ha）
へいせい ねん ねん 平成11年（1999年）	ガーデンヒルズ松陽台 ぞうせい はじ ガーデンヒルズ松陽台の造成を始める（38.80ha）

鹿児島市での埋め立ての面積は、戦後、広がりました。特に、昭和40年以降、稲荷川河口の祇園之洲、甲突川右岸の与次郎ヶ浜、さらに谷山沖の大きな埋め立てが行われました。桜島を除く鹿児島市の海岸線のうち、北側の多くがコンクリート護岸で人工海岸となっています。これらの多くは、海岸を埋め立てた時に造られました。



ななつじま かいすいよくじょう
七ツ島の海水浴場

昭和30年代、七ツ島付近の海岸は海水浴や潮干狩りでにぎわっていました。現在は、埋め立てられて工業地帯となっています。



よじろうがはま う た
与次郎ヶ浜の埋め立て

城山団地を造るときに、山を削った土砂で与次郎ヶ浜を埋め立てました。

ねんだい 年代	う た 埋め立て
しょうわ ねん ねん 昭和41年（1966年）	よじろうがはま う た はじ 与次郎ヶ浜の埋め立てを始める（109.0ha）
しょうわ ねん ねん 昭和42年（1967年）	ごうようち う た はじ 2号用地の埋め立てを始める（266.2ha）
しょうわ ねん ねん 昭和44年（1969年）	ごうようち う た はじ 3号用地の埋め立てを始める（53.5ha）
しょうわ ねん ねん 昭和47年（1972年）	ごうようち う た はじ 1号用地の埋め立てを始める（430.0ha） ぎおんのす う た はじ 祇園之洲の埋め立てを始める（8.4ha）
しょうわ ねん ねん 昭和61年（1986年）	かごしまこうほんこうく う た はじ 鹿児島港本港区の埋め立てを始める（32.8ha）
へいせい ねん ねん 平成8年（1996年）	かごしまこうしんこうく う た はじ 鹿児島港新工区の埋め立てを始める（7.8ha）
へいせい ねん ねん 平成11年（1999年）	かごしまこうちゅうこうく う た はじ 鹿児島港中央工区の埋め立てを始める（24.0ha）